

東京都写真美術館展示会スケジュール

SCHEDULE

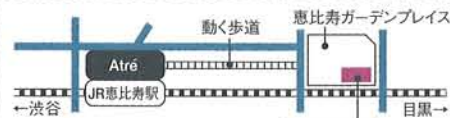
	4月	5月	6月	7月	8月
3F展示室		荒木経惟「花人生」展 5月1日(木)～ 6月8日(日) 	ア・デイ・インザ・ライフ・オブ・ アフリカ 6月14日(土)～7月13日(日) 	ROCK'N' ROLL EYE The Photography of Mick Rock 写真展 7月18日(金)～ 8月28日(木) 	
2F展示室	川田喜久治展「世界劇場」 3月29日(土)～ 5月25日(日) 	東京写真月間2003 「20代作家の挑戦IN&OUT」 5月30日(金)～6月15日(日) 	世界報道写真展2003 6月19(木)～ 7月21日(月・祝) 	白川議員写真展アル プスから世界百名山へ 7月29日(火)～ 9月3日(水) 	
1Fホール	実験劇場「鏡の女たち」 4月5日(土)～ 5月16日(金) 	「チベットの女/イシの生涯」 5月17日(土)～ 6月6日(金) 	「キャバ その愛と人生」 6月7(土)～ 7月中旬 	「ハローマイキー」 7月中旬～ 8月下旬 	
B1F映像展示室	デジタル・フォレスト 4月6日(火)～ 5月24日(土) 	デジタル・イメージ2003 5月31日(土)～ 7月13日(日) 	グローバルメディア2003 7月19日(土)～ 8月31日(日) 		

※スケジュールは予告なく変更される場合があります。

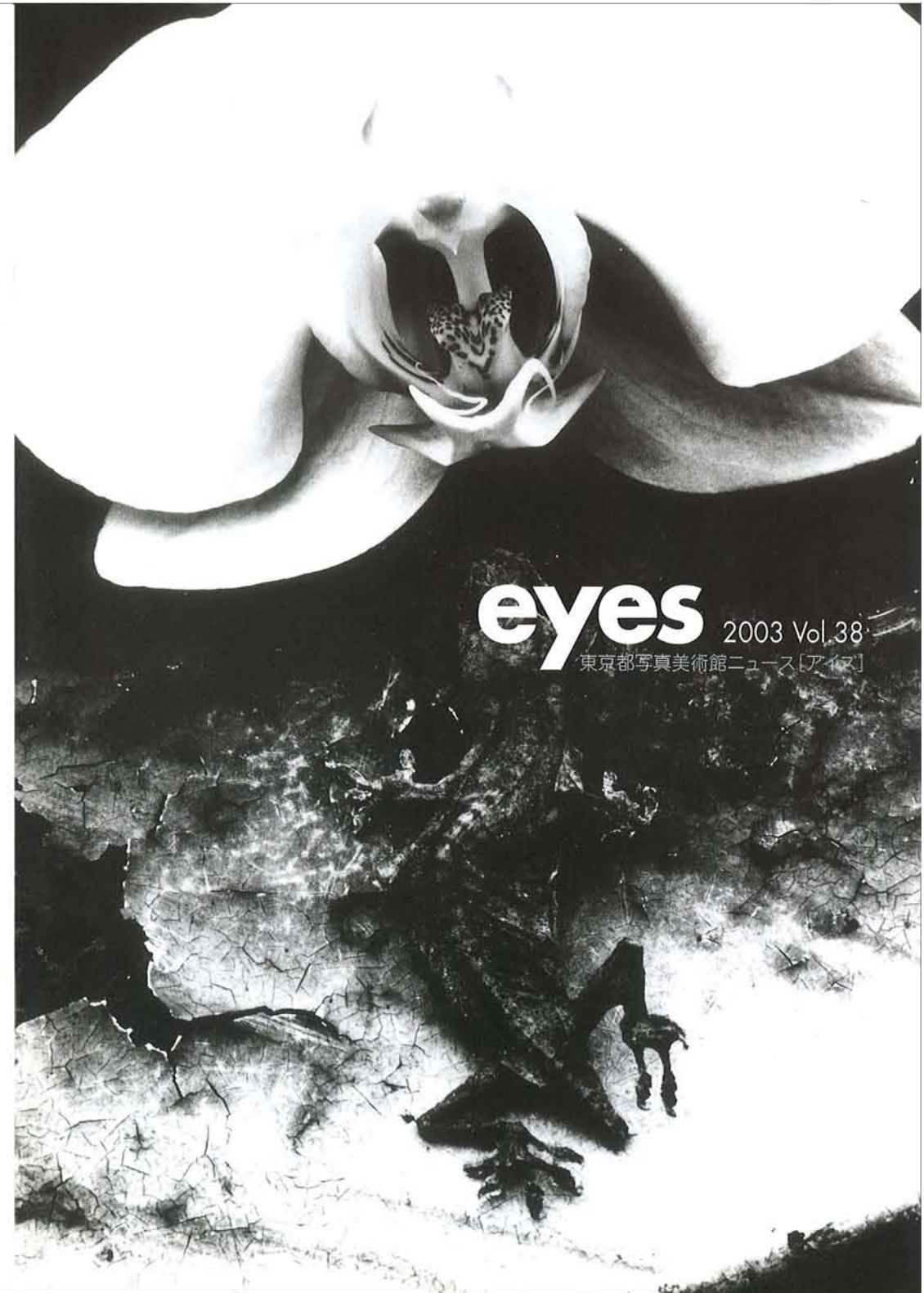
ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(4月28日は開館いたします)
(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)
入館は閉館の30分前まで

★全館セット割引チケットの販売
お得な割引料金ですべての展示会をご覧いただける
チケットを販売しております。
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



<http://www.syabi.com> 東京都写真美術館
Tel.03-3280-0099 Fax.03-3280-0033
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありま
せん。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。





1



3



2

荒木 経惟と花人生
Topics
 ARAKI NOBUYOSHI
 — HANA-JINSEI —

あたしがはじめて花を撮ったのは、実家があった三ノ輪の浄閑寺の墓場ですよ。浄閑寺は、荷風も愛した遊女の投げ込み寺で、そこがあたしの幼時の遊び場だったの。荒木家の墓もあって、春になると八重桜が咲いて、その下で親父は近所の人たちを集めて酒盛りをし、花見をした。親父は花見と花火がなにより好きだったね。

1967年、彼岸の日を1週間ほど過ぎた頃の枯れかかった彼岸花になぜか魅かれて、背景を白いボードで無にして、昼から暗くなるまで写し続けたの。白バックにしたのは、**日常ではなく、無常にしたかったから。**

今回、出品されている「彼岸花」シリーズがそれなんだけど、あのとき、あたしはきっと、人生のエロスとタナトスを感じたんだな。なんで枯れた花を撮るのかっていうと、生から死に向かってゆく姿を長い間見ていることが好きなんだね。だから、ある時期には最後に枯れ切って、もうすぐ死ぬというような花ばかり撮っていた。今思うと、妻が意識を取り戻したあたりを写真で撮り続けていたのかもしれないね。



こぶしの花がパッと
 花開いたんですよ。



4

「こぶしの花」は、妻が危篤だって連絡を受けてから、毎日、病院に行く途中に寄っていた花屋で買ったんだ。まだ蕾のこぶしの枝を抱きかかえて、病院への石段をのぼった。その時に自分の影を撮った写真もある。病院に着いた時には、妻はすでに昏睡状態だったの。あたしはなんか言葉がぼしくて、「陽子、陽子、陽子」と声をかけては口元に耳を当ててた。陽子は『アナタ』と言ったけど、その後は呼吸音だけ。まるで泣き声みたいだったね。手指を握り締めると握り返してきた。そうしてお互いいつまでも離さなかったんだ。そして、午前3時15分。陽子は目をパッと開けて、死に際に何度も何度も顔を横にふった。『イヤ、イヤ、死ぬのはイヤ』ってね。そして、陽子が逝ってしまった後、枕元に飾ってあったこぶしの花がパッと花開いたんですよ。



5



6



7

Profile

荒木経惟(あらかのぶよし) ARAKI NOBUYOSHI



1940年東京都生まれ。63年千葉大卒。64年「さっちゃん」で第1回太陽賞受賞。「センチメンタルな旅」などの私家版や、「荒木経惟写真全集」(全20巻)など含め、おびただしい数の写真集を現在も出し続けている。

妻が逝ってしばらくの間は、部屋の中から空ばかり写していたね。そして、花を写しだした。モノクロ、それは夢。モノクロの花が哀しすぎるからカラーに変え、近景を色景に変えた。そして花曲に酔いしれた。花の写真を見れば、その時々自分にあったことがわかるんだ。妻が死んだあとはモノクロームの花、恋愛がうまくいっている時はカラーの元気な花ってさ。だから、「花人生」っていうタイトルなのよ。

あたしが撮るのは自然の花じゃなくて、全部切り花なの。どの花も切られて、1度、仮死状態になったのを、生けてもう一度よみがえらせる。写真っていうのは、自然のものには負けちゃうんだよ。自然は畏れ多いからね。だから、おいたしたくなっちゃう。「色情花」では、花を撮っているうちに色をつけたくなくなっちゃって、花卉に絵の具を塗っちゃった。淫しちゃうってんだよね、あれは。それから、チューリップって開くとすごいでしょ。昔は閉じたのしか知らなかったんだけど、それが開くといいやらしいんだね。蕾を撮ってて私が近づくと開いちゃうんだ。反応してくれるんだよ。ユリの花も枯れて死ぬ瞬間まで色気を放つんだ。女性と同じだよ。



8

3F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年5月1日(木)~6月8日(日)

友の会
割引

三越カード
割引

アトレカード
割引

荒木 経惟

荒木経惟 花人生 展

ARAKI NOBUYOSHI
— HANA-JINSEI —

■一般1,000(800)円 ■学生800(640)円
■中高生・65歳以上600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

■主催：何必館・京都現代美術館/東京都写真美術館/朝日新聞社

■協賛：セイコーエプソン株式会社/写真弘社

Topics >>> <http://www.syabi.com/schedule/details/araki.html>



© 荒木経惟「花曲」1997

日本写真界を代表する写真家の1人、アラーキーこと荒木経惟が30年来、撮り続けているテーマに「花」があります。始まりは、少年時代の遊び場でもあったという東京・三ノ輪にある浄閑寺の彼岸花でした。死の影を漂わせた花々をモノクローム写真で表現した「彼岸花」シリーズは、彼の花人生の原点となりました。その後、1990年の妻・陽子さんの病死を機に、荒木はひたすら花の撮影に没頭するようになります。当時の作品は「色景」シリーズにまとめられましたが、満開に咲き誇る時期を過ぎ、朽ち始めながらも精一杯、咲き乱れようとする花々は、どれも淫靡な美しさを放っています。

やがて荒木の花写真はモノクロからカラーへと一転。「花曲」などに納められた色鮮やかな花たちは、まるで限られた生に燃える色彩を表現するかのよう、官能的で鮮烈です。また、近年の作品では、アクリル絵の具で花卉に色をつける「色情花」シリーズなど、表現も多形となりつつあるようです。

本展では、これらの花写真の集大成ともいえる作品に、初挑戦の絵画作品「花画」を加えた約300点を展示。写真家・荒木経惟のどこまでも純粹ではかない花人生の全貌をご紹介します。



荒木経惟サイン会 開催

■日時:5月3日(土)・4日(日) 各日午後2時より

■会場:3階展示室前(当日、先着順にて『荒木経惟 花人生』をご持参の方に整理券を配布予定)

●記念出版『荒木経惟 花人生』¥3,800-(税別)を刊行いたします。

●特別限定版『花人生 荒木経惟』著者サイン入り

「花」オリジナルポラロイド1枚付

全冊別仕様/特別装幀/限定150部 1部¥30,000-(税別)

2F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年6月19日(木)～7月21日(月・祝)

友の会
割引

三越カード
割引

アレカード
割引

世界報道写真展 WORLD PRESS PHOTO 2003

- 一般700(560)円 ■学生600(480)円
- 中高生400(320)円
- ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※第3水曜日は65歳以上無料
- 主催：朝日新聞社/世界報道写真財団
- 共催：東京都写真美術館
- 後援：オランダ大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会
- 協賛：キヤノン株式会社/キヤノン販売株式会社/KLMオランダ航空/TPG

「20年ぶりに日本人が入賞」

2003年2月14日、オランダ、アムステルダムで「第46回世界報道写真コンテスト2003」の入賞作品が発表されました。



■世界報道写真大賞 —WORLD PRESS PHOTO OF THE YEAR—

エリック・グリゴリアン(アメリカ) Eric GRIGORIAN (USA)
～イラン地震で犠牲になった父親が埋葬される墓のそばで、遺品のズボンを手にうずくまる少年～



📍 スポットニュースの部/組写真1位
ジョルジュ・ゴベ(フランス)
Georges GOBET (France)
～9月-10月のコートジボアール～

コンテストを主催する世界報道写真財団は1955年、報道の自由の推進とフォトジャーナリズムの水準向上を目指して設立された非営利の文化団体です。毎年、世界中のプロフェッショナルの写真家に呼びかけて作品を公募し、世界10カ国から選ばれた審査委員が12日間かけて写真の審査をおこないます。今年は118カ国から3,913人の応募者がありました。応募数全53,597点から選び抜かれた作品で構成されるこの展覧会は、まさに世界最高峰の報道写真展とい

えるでしょう。本年の世界報道写真大賞はアメリカ、ロサンゼルスを拠点に活動しているアルメニア人カメラマン、エリック・グリゴリアン氏の「イラン地震で犠牲になった父親が埋葬される墓のそばで、遺品のズボンを手にうずくまる少年」の写真が受賞しました。また、スポットニュース部門では、日本でもたびたび報道されて反響を呼んだ、共同通信のカメラマン、加藤智久氏の撮った「中国、瀋陽の日本総領事館に駆け込む北朝鮮の一家」が1位に選ばれました。日本人が入賞したのは約20年ぶりです。

◎お問合せ：朝日新聞社文化事業部「世界報道写真展」係 Tel:03-5540-7412

WORLD PRESS PHOTO



📍 スポットニュースの部/単写真1位
加藤智久(日本) Tomohisa KATO (Japan)
～中国・瀋陽の日本総領事館に駆け込む北朝鮮の一家～



📍 子供大賞
パトリック・アンドレイド(アメリカ) Patrick ANDRADE (USA)
～アフガニスタンの首都カブールで石炭を奪い合う子供～



📍 スポーツの部/単写真特別賞
ロベルト・シュミット(コロンビア)
Roberto SCHMIDT (Colombia)
～日韓共催のサッカーワールドカップの決勝。
優勝したブラジルのロナウジーニョ選手～



📍 自然と環境の部/単写真1位
アントニン・クラトフヴィール(チェコ共和国)
Antonin KRATOCHVIL (Czech Republic)
～コンゴで野生動物の肉を売る女性～

2F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年3月29日(土)～5月25日(日)

友の会
無料

三越カード
割引

アトレカード
割引

川田喜久治展 世界劇場

Kikuji Kawada
—Theatrum Mundi—

川田喜久治インタビューをストリーミング配信中!
Interview >> <http://www.syabi.com/>

■一般500(400)円 ■学生400(320)円
■中高生・65歳以上250(200)円
()は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料、東京都写真美術館友の会会員無料

■主催：東京都／東京都写真美術館／朝日新聞社／川田喜久治展実行委員会
■協賛：資生堂／ニコン／富士写真フィルム／重森弘掩顕彰会
■協力：フォトギャラリー・インターナショナル／日本油脂／油脂製品／リプロ／サッポロビール



フリーウェイと天使 1999年「ユリイカ」より

1965年、その鋭い感性と意外性に満ちた意匠で、写真集「地図」が話題となった川田喜久治。国内外での旺盛な創作活動は、その後も写真界に新たな切り口を開き、センセーショナルな記憶を残し続けました。今回は、代表作に「カーマニャック」や「ユリイカ」などの近作や最新作を加え、川田の約半世紀に及ぶ写真活動の軌跡を展覧します。時代の諸相に鋭敏に反応し、刺激的で斬新な作品を発表し続ける作家の深淵に触れる絶好の機会です。



幻の写真集「地図」(1959-65年)
1965年に川田喜久治による初の写真集として出版された『地図』は、原爆投下の記憶を残す戦後史のドキュメンタリーをもとに制作され、現代社会への普遍的な問いかけとして、鮮烈なメッセージを投げかけ続けている。
中学生夏服上着 1959-65年「地図」より



原爆ドーム 1959-65年「地図」より

Work Shop ワークショップ

川田喜久治展レクチャー・ワークショップ開催

■Aコース:5月3日(土)・4日(日) ■Bコース:10日(土)・11日(日)

今回展示される幻の写真集「地図」や1960年代に発表された初期の作品から最新作にいたるまでを川田喜久治氏自らが語ります。その鋭い感性を間近に感じられる絶好のチャンスです。

Work Shop >> <http://www.syabi.com/workshop.html> ※詳しくはHPをご覧ください。

フロアーレクチャー

■4月11日・25日、5月9日・23日各日金曜日午後2時より ※当館学芸員による展示解説を行います。

2F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年5月30日(金)～6月15日(日)

東京写真月間2003
—THE MONTH OF PHOTOGRAPHY,
TOKYO 2003—

企画展:20代作家の挑戦

IN & OUT

Japan・Korea

入場無料

■主催：「東京写真月間2003」実行委員会
社団法人日本写真協会／東京都写真美術館
■後援：外務省／文化庁／東京都／
駐日韓国大使館 韓国文化院
■助成：日韓文化交流基金／芸術文化振興基金

schedule >> 詳細ホームページ
http://www.syabi.com/schedule/details/mon_photo.html

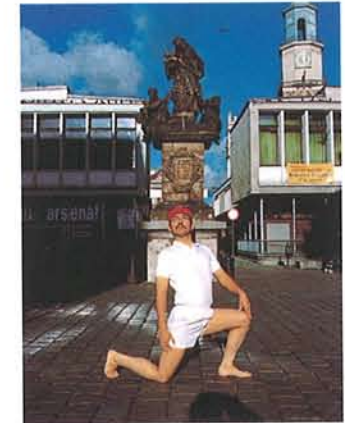


© 姜陳錫 (KANG Jin Seok)

「IN(内なる世界)」と「OUT(社会への眼差し)」をテーマに、全国の写真教育機関で学ぶ20代の学生54人の作品を約350点紹介。新たな世代の作家たちが、写真という表現手段を自由に使いこなし、力強いメッセージを打ち出しています。

さらに今年は、韓国の32名の学生たちによる同一テーマの作品も約200点集めて展覧しています。意欲的で活気にあふれた日韓学生の作品は、未来につながる光を象徴しているかのようです。

◎お問い合わせ：「東京写真月間2003」実行委員会(社)日本写真協会
Tel:03-5276-3585 / <http://www.psj.or.jp>



© 小高政彦「一人組体操」

2F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年7月29日(火)～9月3日(水)



© 白川義員「マチャブチャリ東壁」1968-70年「ヒマラヤ」より

前人未到の旅路をゆく 白川義員写真展
アルプスから世界百名山へ

■主催：東京都写真美術館／毎日新聞社
■協賛：凸版印刷／コニカ

世界的写真家で、山岳写真家としても輝かしい実績を残す白川義員がカメラに収めた世界の名峰127山。気高く、壮大なスケールをもつ風景の数々に、私たちは感動を与えられ、地球環境の重要性を考えさせられます。今回は、近作「世界百名山」に当館の収蔵作品も加え、白川作品の崇高な世界を紹介いたします。

B1F | 展示室
Images & Technology Gallery

2003年4月6日(日)～5月24日(土)

友の会
無料

三越カード
割引

アトレカード
割引

デジタル・フォレスト
Digital Forest

猪又健志+山本努武/タマシュ・ヴァリツキー/
サウンドバム・プロジェクト

Takeshi Inomata+Tsutomu Yamamoto/Tamas Waliczky/Sound Bum Project

■一般500(400)円 ■学生400(320)円
■中高生・65歳以上250(200)円
()は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料、東京都写真美術館友の会会員無料

■主催：東京都/東京都写真美術館
■企画協力：NHKエンタープライズ21/サミー株式会社
■協力：日本ヒューレット・パッカード株式会社



「VRの森」

サウンドバム・プロジェクト

本展「デジタル・フォレスト」では、人間の持つ五感にあわせて多様なデジタル・アートの空間が出現します。木曾川の流木に触れ、切り株の持つ想い出を体験する猪又健志の「Talking Tree」、終わりのない美しい植物の森をさまようT.ヴァリツキーの「Aquarelle 2000」、世界中を旅して見つけた音を体験できるサウンドバム・プロジェクト、液晶や立体ディスプレイの中に生息する生き物たちを通して、ますますIT化される日常の中で「癒し」や「癒し」を求める私たちの肉体や精神を、視覚・聴覚・触覚から再考する試みです。



タマシュ・ヴァリツキー「Aquarelle 2000」



猪又健志「Talking Tree」

3F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年6月14日(土)～7月13日(日)

友の会
無料

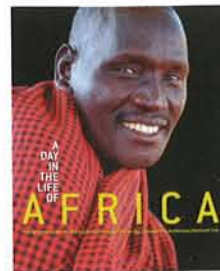
A Day in the Life of
AFRICA

ア・デイ・イン・ザ・ライフ・オブ・アフリカ

—100人の写真家がみたアフリカの1日—

■一般500(400)円 ■学生400(320)円
■中高生・65歳以上250(200)円
()は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料、東京都写真美術館友の会会員無料

■主催：オリンパス光学工業株式会社
■共催：東京都写真美術館
■後援：外務省/社団法人日本写真家協会/
社団法人日本写真協会



Doug Menezes in Tanzania

写真家たちがさまざまな国や地域に分散し、ある1日の様子をカメラに収める史上最大規模の撮影イベント、「Day in the Life」。シリーズ20年目を迎える今回は、初の全面的なデジタルカメラ撮影が試みられ、各国から約100名の写真家が参加しました。広大なアフリカ大陸全53カ国を舞台に、タンザニアのオルドバイ渓谷や、ダカールの市場、サハラ砂漠など、100人の視点から捉えられたリアルな姿が、現代アフリカの実態を浮き彫りにしています。



Themba Hadebe in Zambia

※本写真展の収益は全額、アフリカのエイズ教育プログラム基金に利用されます。

◎お問い合わせ：オリンパス光学工業株式会社
Tel:03-3340-2111(平日9:00～17:00)

B1F | 展示室
Images & Technology Gallery

2003年5月31日(土)～7月13日(日)

**デジタル・イメージ
2003展**



デジタル・イメージ 2002展より

■一般250(200)円 ■学生200(160)円
■中高生・65歳以上120(100)円
()は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料、東京都写真美術館友の会会員無料

■主催：東京都/東京都写真美術館/デジタル・イメージ
■後援：CG-ARTS協会/財団法人デジタルコンテンツ協会

日本で最大のCGアーティスト集団「デジタル・イメージ」。参加者は画家、グラフィックデザイナー、イラストレーター、フォトグラファー、プログラマー、教育者、建築家、漫画家、音楽家とさまざま。その全体展として、3D、CGアニメーション、ペイントなど、多彩なデジタルアートを通じ、「デジタル・イメージ」の世界を一挙に見ることができる試みです。

◎問い合わせ：デジタル・イメージ事務局 Tel:03-5212-1633

3F | 展示室
Exhibition Gallery

2003年7月18日(金)～8月28日(木)



© Mick Rock
「Freddie Mercury」
1974

ROCK'N'ROLL EYE
The photography of Mick Rock 写真展

■主催：朝日新聞社 ■共催：東京都写真美術館

シド・バレット、デヴィッド・ボウイ、ルー・リード、イギー・ポップなど、60年代から80年代にかけて圧倒的な存在感を放ったロック・スターたち。そんな彼らの才能を凝視し、記録し続けた写真家ミック・ロック。本写真展では、短くも煌びやかでセンセーショナルだったロックの時代を、息吹すら感じさせるミックの作品を通して振り返ります。グラマラスな輝きに満ちていたあの頃…。当時の空気が、再び会場に蘇ります。

◎問い合わせ：Conversation
Tel:03-5280-9996/http://www.conversation.co.jp

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

当館では4月5日から上映する「写真美術館で観る映画Vol.3 鏡の女たち」を皮切りに、選りすぐりの作品を上映いたします。美しい映像と心にしみる感動をお楽しみください。

Vol.3

2002年カンヌ国際映画祭特別招待作品

鏡の女たち

FEMMES EN MIRROR
吉田喜重監督作品

■上映スケジュール/4月5日(土)～5月16日(金)
■休映日/月曜日(祝日の場合は翌日)※4/28は上映
■上映時間/10:35/13:20/15:55/18:30
(土曜日のみ初回10:15)
■一般1,800円 学生1,500円 ■前売り1,300円



2002年カンヌ国際映画祭で特別招待作品として上映され、高い評価を得た本作品。運命に翻弄されそうになりながらも希望の灯に向かって一歩一歩生きる三世代の女性の姿を

スタイリッシュな映像と丹念な描写で綴ります。

また、ホール前では岡田茉莉子女優活動50周年を記念して、スターのポートレート撮影などで知られる故早田雄二氏が撮った岡田茉莉子のポートレートや彼女のフィルモグラフィもご覧いただけます。

■2002年/日本/129分 ■監督:吉田喜重 ■出演:岡田茉莉子、田中好子、一色紗英、山本未来、西岡徳馬、室田日出男 ■2002年カンヌ国際映画祭特別招待作品
■詳細ホームページ <http://www.groove.jp/movies/mirror>



あなたは、愛のともしびを
燃やしつつつけていますか?

アンコール
上映

チベットの女/イシの生涯 —益西卓瑪 Song of Tibet—



■上映スケジュール/
5月17日(土)～6月6日(金)
10:20/12:30/14:40/16:50/19:00
■一般1,800円 学生1,500円

1月に当館でロードショー公開され、大好評のうちに終了した写真美術館で観る映画シリーズvol.2「チベットの女」のアンコール上映です。イシ役を演じた主演のテンジン・ドカーは、自然体の美しさ、その表情、豊かな演技力は、人々の共感と涙を誘い、見事、中国金鶏賞主演女優特別賞を受賞しました。

■2000年/中国/105分 ■監督・脚本:シェ・ウェイ ■原作・脚本:ザシダワ ■出演:テンジン・ドカー、オンドウ、ラクチュン ■2000年中国金鶏賞受賞
■詳細ホームページ <http://www.bitters.co.jp/tibet/>

Vol.4

CAPA in Love & War キャパ・イン・ラブ・アンド・ウォー

■上映スケジュール/
6月7日(土)より公開
10:40/12:40/14:40/16:40/18:40
お問合せ先:オフィス・イト Tel 03-3263-6708

20世紀最大の報道写真家として知られるロバート・キャパ。彼は軍服を着て戦車に乗り込み、三大陸で起こった5つの戦争を写真に記録しました。その衝撃的な写真は、スビルバーグに『プライベート・ライアン』を想起させました。本作はキャパの膨大な写真と関係者の証言による、伝説的な写真家の一生に巧みに生命を吹きこんだ初めてのドキュメンタリーです。

■アメリカ/2002年/90分/カラー+モノクロ
■監督/製作/脚本:アン・ピースメーク ■ドキュメンタリー作品
■2003年サンダンス映画祭ドキュメンタリー部門ノミネート作品



【お問い合わせ】
ミュージアムショップ/
直通03(3280)3279(山崎)

来館者が気軽に立ち寄れる場として、写真と映像に関する書籍やグッズを揃えたミュージアムショップが1階に設けられています。当館で開催された展覧会図録や写真集などの書籍、国内外の美術館で制作されたグッズ、さらには当館のオリジナル・ポストカード、ステーションナリー、バッグなどのグッズを販売しています。

新商品のお知らせ

東京都写真美術館のオリジナルのTシャツができました!(写美T)

色は白・オレンジ・ネイビー・オリーブグリーン・カリビアンブルーの5色で胸に写美の文字とホームページアドレスが入っています。来館の記念にぜひどうぞ。



1枚¥2,000-/サイズは2種類

Museum Shop Pickup-1

店長のハマリモノ〜トイカメラの巻〜

最近、トイカメラを手に入れたんですけど、面白いですね。思いもよらぬ写真が撮れるんです。ピントがあまかったり、光漏れがあったりするんですが、これがまた、いい感じに仕上がるんです。出来あがるまでのドキドキ感もいいんですよ。



撮影/山崎



この写真は、散歩の途中で見つけたみかんの木。『HOLGA』にボラ用の補正レンズをつけたまま撮ってみました。光の粒が大きく写って、ゆるい感じが気に入っています。

※お問い合わせは当館ミュージアムショップまで

Museum Shop Pickup-2

店長のオススメ〜にやら〜き〜

写真家・荒木経惟と猫が合体したキャラクター、『にやら〜き〜』が誕生! ショップでも、ストラップ・ピンズ・キーホルダーなどのグッズを入荷いたしました。サングラス姿の『にやら〜き〜』は、カメラ片手にお茶目なポーズをとっていて、とってもキュートです。その他、これまでネット販売でしか手に入らなかった貴重な写真集もご用意しております。是非、お立ち寄り下さい。



新商品や入荷情報などはホームページでもご紹介しています。
<http://www.syabi.com/shop/shop.htm>

01 「写真とは何か」

詩であつて文字はない。
記録であるがスケッチではない。
美術でもあるが絵ではない。
意志を伝えようとするが声はない。
時に音を聞くことがあるが楽器はない。

私たちはあまりに写真になじみ過ぎていて、本当に「写真とは何か」を理解していないのではないかと。去年の八月、子供たちの夏休みにあわせて、天野祐吉氏、谷川俊太郎氏のお二人による「写真ってなんだろう」という企画展を開いた。お二人のコンビはほんのりめり込んで、ご自身がたまたのしみながらプログラムができた。

もちろん子供たちはそれなりに楽しんでくれたと思うけれど、大人の方々のアンケートには私たちが考えもしなかった感想があった。たとえば、初めて写真の展覧会を見たのが、写真に興味を持つようになり、これからは写真展を見ようというのだ。
来年あたりもう一度このテーマに挑戦しよう。

東京都写真美術館 館長 福原義春

Home page ホームページ

東京都写真美術館のホームページは4月1日よりリニューアルしました。

旧URL
http://www.tokyo-photo-museum.or.jp/

※旧URLからも新しいURLにアクセスできます。

新しいURLは……

http://www.syabi.com/



東京都写真美術館
ホームページの新しいマークです。

当館ホームページをより楽しんでいただくために、リニューアルいたしました。

- ◎画面のデザインを、統一がとれ見やすいものに変更しました。また回線の負荷軽減を考え、無用な動きを押さえてページ全体を軽くしました。
 - ◎メニューバーの設置、フロアー別入室案内やサイトマップなどを取り入れ、表示ページの位置を明確にし、知りたいページや元のページへも簡単に移動できるようになりました。
- 最新ニュースはもちろん、写真家のインタビューや、展覧会に関連したギャラリートーク、イベントなど、貴重な動画もストリーミング配信します。
- 他にもお得な情報を盛りこんでご紹介していきますので、ご期待ください。

新トップページ

デザインはシンプルに、必要な情報だけをセレクト。無用な動きは押さえて回線の負荷を軽減しました。



メニュー
Menu

NEWS

動画配信スタート!

eyesで取り上げた作家インタビューや展覧会の模様など、貴重な動画を配信します。

メールマガジン登録スタート!

東京都写真美術館のとおき情報をいち早くお届けできるメールマガジンをホームページ上で自動登録できるようになりました。

※このマークが目印です。
メニューからも登録画面へ入れます。

News・Topics・Exhibition.

東京都写真美術館のニュース、特集、展覧会、上映インフォメーションなど随時更新。トップから見たい情報へすぐ移動。サイン会などとおき情報も要チェック。

Membership 維持会員

東京都写真美術館は、写真と映像に関する総合的な美術館として1995年1月、恵比寿ガーデンプレイス内に開館し、日本及び海外の優れた写真・映像作品を様々な視野からとらえ、展覧会を開催してきました。写真文化を愛する多くの皆さまに維持会員として、日本で唯一の写真と映像の美術館を応援していただいています。

※詳しくはHPをご覧ください。http://www.syabi.com/Membership.html

維持会員のご紹介

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、多くの企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

- 特別維持会員
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
学校法人文化学園
株式会社リコー
- 維持会員
朝日新聞社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
味の素株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
株式会社NTTドコモ
株式会社大林組
オリンパス光学工業株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カネボウ株式会社
キヤノン販売株式会社
協和発酵工業株式会社
キリンビール株式会社
株式会社講談社
株式会社コーセー
- コダック株式会社
株式会社ザ・アール
サッポロビール株式会社
サントリー株式会社
ジェイティービー印刷株式会社
清水建設株式会社
株式会社集英社
株式会社小学館
セイコー株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
株式会社東京ドーム
株式会社東芝
株式会社徳間書店
戸田建設株式会社
株式会社ニコン
- 日産自動車株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
日本大学芸術学部
日本テレビ放送網株式会社
日本ビルサービス株式会社
日本油脂株式会社
株式会社博報堂
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ファーストリテイリング
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
株式会社ベネッセコーポレーション
ペンタックス株式会社
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
森ビル株式会社
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール

<五十音順>
(平成15年4月現在)

1F Supporter 友の会

受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみの受けつとなっております。

東京都写真美術館友の会は特典がいっぱいです。



東京都写真美術館では友の会会員を随時募集しています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、ミュージアム・ショップでの割引(一部商品を除く)、美術館内カフェのコーヒーサービス、写真美術館ニュースeyesの送付、

学芸員によるフロアレクチャーなど、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。また当館1階チケットカウンター横に「友の会カウンター」を設置しました。お立ち寄りの際に、お気軽にご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

●詳細は当美術館までお問合わせください。(03-3280-0099)

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員(同伴者1名まで)	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

*会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。

友の会特典	収蔵展・映像展	共催展・企画展	ミュージアムショップ	レストラン・カフェ	その他
特典内容	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料	割引 ※御利用いただけない場合もごさいます	5%引き ※一部商品は除きます	コーヒーサービス ※個人会員とシルバー会員は3杯、家族会員は5杯	・実験劇場(1階ホール)の割引 ・写美NEWS「eyes」送付 ・ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)